

令和 3 年 5 月 6 日現在

機関番号：13802

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K17518

研究課題名（和文）効果的で質の良い精神的ケアの提供に向けた看護師の対人反応性指標の作成

研究課題名（英文）Developing an interpersonal reactivity index for nurses to provide effective and quality mental care

研究代表者

水嶋 好美（青木）（Aoki, Yoshimi）

浜松医科大学・医学部・助教

研究者番号：70781376

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：この研究は、日本の看護師を対象として、「看護師の共感能力を評価する臨床対人反応性指標（原版）が共感を評価することができるか」を検証することを目的とした。この研究の対象者は、国立大学病院に所属する看護師と看護学研究者であった。分析を行った結果、臨床対人反応性指標は、18項目であり、2つの共感の要素を評価できることが明らかになった。その2つの要素は、患者の視点に立って患者を理解する「視点取得」と如何なる患者も無条件に理解しようとする「無条件の肯定的理解」を評価することが確認された。この共感の指標を用いて、共感を教育していくことで、看護師の共感の能力は向上すると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

臨床対人反応性指標の信頼性と妥当性が確認され、看護師に求められる共感を評価できることが確認された。臨床対人反応性指標では、視点取得（相手の立場に立って考えること）と無条件の肯定的理解（如何なる場合であっても相手を理解しようとする）の2つであり、いずれも臨床心理学者のRogersが提唱している効果的なカウンセリングを行うための条件に含まれている。

臨床対人反応性指標は、看護師の共感に関する教育の評価に用いることができ、看護師の共感能力を向上させる一助になると考えられる。また、看護師の共感能力が、看護師自身のメンタルヘルス等にどのような影響を及ぼすかなども明らかにすることができる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to determine the validity and reliability of the Clinical Interpersonal Reactivity Index in Japanese nurses. Participants were regular nurses belonging to a national university hospital and nursing researchers in Japan. A postal questionnaire was conducted. Construct validity was analyzed by exploratory and confirmatory factor analysis, and correlation analysis was conducted using the Interpersonal Reactivity Index. Clinical Interpersonal Reactivity Index has an 18-item, two-factor structure. Correlation analysis between a clinical interpersonal reactivity index and Interpersonal Reactivity Index indicated the factors had a significant correlation for empathic concern and perspective taking. The Clinical Interpersonal Reactivity Index had adequate validity and reliability in Japanese nurses. The two factors evaluated perspective taking and unconditional positive regard.

研究分野：基礎看護学

キーワード：共感 臨床対人反応性指標 視点取得 無条件の肯定的理解

1. 研究開始当初の背景

看護実践において「共感」は、看護師と患者との関係を構築する上で最も基本的な能力であり、患者への精神的ケアを遂行する上で重要だと考えられている (Reynolds, 1999; 福田, 2009)。ところが、一方では、患者の理解し難い考えや苦悩など、複雑な感情に対して共感することが看護師にとって感情労働となり、その感情労働はストレスにつながることも明らかにされている (Hochschild, 1983; 片山, 2006; 片山, 2010)。そのストレスには、患者に「共感(同感)できない」という、共感と同感との混同が影響していると考えられる(図1)。

臨床心理学の立場から共感の重要性を示した Rogers (1957) は、Empathy とはクライアントの内的世界の私的な個人的意味を自分自身のもののように感じながら、決して「あたかも...のごとく」という性質 (“as if” quality) を失わないことと述べている。また、看護学の立場から看護の根源的なあり方を追求した Travelbee (1964) は、Empathy は相手の内的世界を意識的に把握することであり、Sympathy は相手の苦悩に心を動かされ、その感情に参加して援助したいと思うことだと述べている。つまり、Sympathy は患者を援助する上で必要であることを示しているが、Sympathy の前提条件として患者と自身を同一化しないことを示している。したがって、

Rogers (1957) の「Empathy の概念」と Travelbee (1964) の「Sympathy の概念」とは、同様の意味を示していると考えられる。しかし、Sympathy は患者と同じ気持ちになることを意味する「同感」と翻訳され、これらの概念を理解する上で 看護師に求められる「共感」と「同感」とは区別されにくく、混乱を招いている。さらに、共感を多次元的概念として捉えた社会心理学者の Davis (1983) は、共感の特性を感情的側面と認知的側面から構成される多次元的概念として捉え、その一般的な対人関係における共感の特性を多次元的に測定する尺度として対人反応性指標を作成した (Davis, 1983)。対人反応性指標の認知的側面の構成要素である「視点取得」は他者の視点にたつてその他者の気持ちを考えることと示されている。この「視点取得」は、Rogers (1957) の「Empathy の概念」と Travelbee (1964) の「Sympathy の概念」に含まれているが、これまでにある尺度は看護師に求められる共感性の感情的側面が強調されており、共感性の認知的側面を具体的に測定できる尺度は見当たらない。したがって、患者とのかかわりにおける共感の能力を多次元的に評価できる看護師の対人反応性指標を作成することが必要である(図2)。看護師の対人反応性指標は、共感性の認知的側面と感情的側面をバランスよく含み、かつ、Rogers (1957) が示した効果的なカウンセリングの要素である共感的理解、受容、自己一致を参考にして作成することとする。

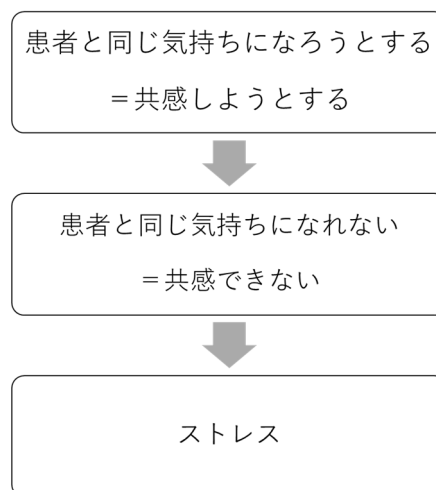


図1. 共感と同感との混同によるストレス

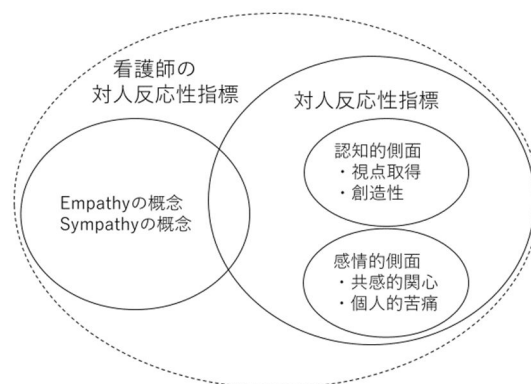


図2. 看護師の対人反応性指標に関連する要素

2. 研究の目的

本研究は、本来、看護師に求められる共感の能力について改めて明確に示し、それを多次的に測定することができる看護師の対人反応性指標を作成することを目的とする。看護師の共感の能力を多次的に測定する尺度を作成することによって、患者に対する効果的で質の良い精神的ケアの提供を促し、看護師のメンタルヘルスを向上させる一助とする。

3．研究の方法

研究1

プレテストとして、オンライン質問紙を実施した。

研究は一時点の横断研究であり、オンラインでの質問紙を用いた。Web 質問紙への回答期間は2018年9月から10月とした。

対象施設は全国の精神科病院、緩和ケアを行っている施設、救命救急センターとした。その理由は、精神的ケアの内容、必要な状況が異なる領域で働く看護師を対象とすることで、臨床対人反応性指標（原案）の多様性を検討することを可能にすると考えたためである（田中ら，2015；野戸ら，2002；稲垣ら，2016；村上ら，2016）。したがって、対象施設は全国の地域ごと看護職者の数を基にした層化抽出法で選定することとした。研究者は216施設の管理者へ連絡し、依頼文書と返信用ハガキを郵送した。返信用ハガキでは、研究への同意の可否、同意が得られる場合の対象者数を確認した。

対象者への依頼文書は、研究への同意が得られた施設の管理者へ郵送し、病棟責任者から対象者となる看護師へ配布された。回答期間中、回答数が少なかったため、施設を通じて協力を依頼する文書を対象者全員へ配布した。

研究2

研究は一時点の横断研究であり、個別郵送法を用いた無記名自記式質問紙を用いた。質問紙への回答期間は2019年7月から10月とした。

対象施設は国立大学附属病院44か所（A病院を除く）とした。2019年6月日本の国立大学附属病院の看護部長に電話と文書で依頼した。協力が得られた病院へ質問紙を郵送し、病院の管理者から対象となる看護師へ質問紙を配布することを依頼した。配布された質問紙は、個別郵送法で回収した。

2019年2月から4月にA病院の精神科病棟で働く看護師20名および専門家会議に参加する看護学研究者11名を対象として再テスト信頼性を検証した。最初のテストから2週間後に再テストを実施した。

4．研究成果

研究1

項目の妥当性を検証し、2項目を見直し、1項目を除外した。そして、自由記述を内容分析し、抽出された1項目を追加することとした。

研究2

依頼した44施設のうち、協力が得られた23施設819名の看護師に質問紙を配布した。その結果、402名から質問紙の解答が得られた（回収率：49.1%）。そのうち、欠損値が多かった2名と臨床経験年数が2年と短かった者の解答を除外し、有効回答は399人とした（有効回答率：48.7%）。臨床経験年数が4年と回答した者が6名いたが、おおよそ5年と判断し、除外しなか

った。対象者は、女性 369 名 (92.5%)、平均年齢は 38.3 歳 (標準偏差 9.1) であった。最終学歴は、4 年制大学が 169 名 (42.4%) と最も多かった。

分析の結果、7 つの項目を除外することとなった。項目 9 は天井効果が認められたため、除外することとした。また、項目 4、7、18、21、22 は IT 相関が 0.3 以下であったため、除外することとした。また、項目を削除した場合のクロンバック α が 0.86 以上である項目 3、14 も除外することとした。探索的因子分析は、最尤法、プロマックス回転で行うこととした。スクリープロットを確認し、因子数は 2 に固定した。その結果、項目 1 が因子負荷量 0.400 以下となり、除外された。その結果、CIRI は 18 項目 2 因子構造となった。クロンバック α は尺度全体が 0.89、第一因子が 0.87、第二因子が 0.73 となった。確認的因子分析の結果、GFI が 0.917、AGFI が 0.894、CFI が 0.911、RMSEA が 0.60 となった。

CIRI と IRI の下位尺度との相関分析の結果、第一因子は IRI の EC と $r=0.439$ 、PT と $r=0.401$ の有意な相関があった ($p < 0.01$)。第二因子は IRI の EC と $r=0.418$ 、PT と $r=0.375$ の有意な相関があった ($p < 0.01$)。

テストリテストの対象者は、看護師および看護学研究者 31 名であった。有効回答者は 30 名 (女性 28 名、男性 2 名) であった (Table 5)。一回目と二回目の相関分析の結果、尺度全体は $r=0.843$ ($p < 0.01$)、第一因子は $r=0.859$ ($p < 0.01$)、第二因子は $r=0.709$ ($p < 0.01$) であった。

臨床反応対人性指標の信頼性と妥当性は確認され、18 項目という少ない項目で、看護師に求められる共感を評価できることが確認された。臨床対人反応性指標に含まれる因子は、視点取得と無条件の肯定的理解であり、いずれも臨床心理学者の Rogers が提唱している効果的なカウンセリングを行うための条件に含まれている。

臨床対人反応性指標は、看護師の共感に関する教育の評価に用いることができ、看護師の共感能力を向上させることができると考えられる。また、看護師の共感能力の向上が、看護師のメンタルヘルス等にどのような影響を及ぼすかも明らかにすることができる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yoshimi Aoki, Harumi Katayama	4. 巻 16
2. 論文標題 Development of a Draft Clinical Interpersonal Reactivity Index to Evaluate Empathy in Nurses	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 14-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14391/ajhs.16.14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Yoshimi Aoki, Harumi Katayama
2. 発表標題 Relationship between a draft clinical interpersonal reactivity index (CIRI-D) to evaluate nurses' empathy and state of self-compassion
3. 学会等名 2019 AAPINA(Asian American /Pacific Islander Nurses Association, Inc) Conference Planning Committee (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木好美, 片山はるみ
2. 発表標題 看護師の共感を評価する臨床対人反応性指標（原案）の統計学的検証
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshimi Aoki, Harumi Katayama
2. 発表標題 Are different types of empathy required for nurses and therapists?
3. 学会等名 The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions : Innovations in Practice, Education, and Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshimi Aoki, Harumi Katayama
2. 発表標題 Relationship between a draft clinical interpersonal reactivity index to evaluate nurses' empathy and state of self-compassion
3. 学会等名 2019 AAPINA Conference Planning Committee (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木好美 片山はるみ
2. 発表標題 看護師に求められる共感を評価する指標の作成と視点取得の重要性
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshimi Aoki, Harumi Katayama
2. 発表標題 Consideration of reliability of a draft Clinical Interpersonal Reactivity Index to evaluate empathy in nurses
3. 学会等名 East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2021 Virtual Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------